

第 6 班

メインテーマ

今後の建設業のあり方

サブテーマ

機電技術者の役割と可能性

鹿島建設	小林	東急建設	大野
奥村組	粂田	熊谷組	宮浦
不動建設	津留		

テーマ選定の背景

機電技術者として、何ができるかを議論することで、将来に向けて何をなすべきかを考えることとした。議論のベースとしては、各参加者が置かれている問題に注視するよりも、社会が建設業に求めているものは何かという視点から、今後の建設業の役割を私たちに検討し、その役割に対して機電技術を基礎とした建設技術者として何ができるのかについて議論を展開した。

建設業の技術

閉塞的な面が多い

技術的には、ある程度完成…技術的に成熟している部分が多い（ブレークスルーが必要）



建設業に対する世論

一般には理解されないイメージ…3Kのイメージが払拭されていない。

公共事業の是非が問われている…インフラ整備は現状不十分だが一般世論は否定的。



付加価値とは

地域住民・利用者が決定する…現状型の公共事業では利用者の顧客満足度が低い。



市場開拓の必然性

提案型事業モデルの構築…より付加価値、顧客満足度の高いものを提供する。

コラボレーション…異業種間提携により、新しい発想の導入及び開発コストの低減。



コラボレーションの結果（同業他社・異業種）

社会全体のトータルコストの低減…社会が直面する問題について共同研究を行う。

建設業全体の生き残りを目指す…社会に貢献しかつ、コスト低減により建設業の存続を図る。



我々機電技術者のすべきことは何か？

機電特有の人脈を生かし、他業種との橋渡し…機械・電気出身という利点を積極的に活用する。

我々のポテンシャルを最大限に生かす…他業種の技術導入・技術提携において活躍できる。



このための環境整備を行っていく。

前向きに、外部にもよく目配せをし、情報収集をして今後何が必要か、どうすれば効率的に事を進めることができるかを考えられる環境を整備し、社会に貢献していく。